慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 「オックスフォード小冊子」中の時局経済研究 |
| Sub Title | |
| Author | 堀江, 帰一 |
| Publisher | 慶應義塾理財学会 |
| Publication year | 1915 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.5 (1915. 5) ,p.547(71)- 556(80) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 雑録 |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150501-0071 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

廣告主へ御註文の節は三田學會雜誌廣告に依る旨御附記を望む

# 日本通商聯絡組合本部

地方商店二萬余の總仕入本部也

●地方支部大募集　全地方小賣業者の百般の事務を弊社商品仕入の指揮也
本組合地方支部は二郡を獨占すべき絶對權利を附與し三郡内に組合員會員取引店を大募集するを得ると共に更に〈本組合發賣の日用百貨は凡て本組合本部發表の割引表通りの價格を掛けず元價にて送荷するが故に本組合本部發表の割引表通りの價格にて如何なる片田舎にても大に販賣するを得べし日本全國及び新領土に凡て五郡に對し支部認定機關を置す希望者大至急照介せらるべし

●組合員大募集　我組合員たる以上は値拾圓又は壱拾圓の少資本を以て何等商業に經驗なくも本部勧募の下に見切品店仕舞品競賣品發明品又は本部製造の破格廉價なる實用商品を仕入れ凡ての商入を壓倒し大々的に活動するを得べし何百里遠方の田舎に在住するも我本部を唯一の仕入本部とせば千萬種類の商品は立所に揃ひ而も大問屋卸値より三四割安價に仕入得べし地方に於て少資本を以て商業上屋師値より成功せんと欲せば必ず我組合員となるに有此際一村一名限の組合員を募集す　希望者は返信料封入速に照會せられよ

●通商聯絡隊員募集　拾數圓の資本を以て本部指定の服裝の下に日本全領土を行商漫遊せしめんとす　是に天下の破格廉價の交易品を驅使し大問題萬目を驚倒せしむるの壯快學たり何等經驗なき人士も此の行商遊廊に依つて活實業の實際學を自研得する能べし希望者は速に照會せられよ

●實用商店壹萬店の建設　日用百貨實用商用商品を本組合本部は直製し組合本部は單に製造工賃に甘んじ一切問屋の手を省き日本全國一村一名限り本組合員たる實用商店を殷賑し是等の實用百貨を本組合本部は直送し以て天下無敵に大々的破格廉價を實行し以て我日本組合商聯絡組合員たる全國一村一名の合計壹萬余の大商業團體を組織し日本商業界の中堅として建設する快學なり而て一村一名限りの實用商店は日本通商聯絡組合員に限り許可する則ち自家營業上百年の基礎を得んとする人士は至急返信券封入即會せられよ

東京市神田區柳原河岸三號地　振替東京二六二四八番　電話本局五一六二番

●東京雜貨同業競賣所　東京市内の幾萬人の雜貨同業者の見切品店仕舞格安の現金競賣所は我本組合本部の四層樓上の大廣間に毎月三回宛の大市と普通十一回の平日市場を開催さる本組合員は坐ながらにて此のたゞの如き幾千萬の破格店仕舞品を隨意仕入るを得べし

## 壹萬圓蓄成團員募集

「愈副業で壹萬圓貯蓄の出來る大考案」

我組合長によりて考案提唱されたり

こんな不景氣の世に勿驚壹萬圓の金儲が副業として樂に出來る

本組合專獨的專業也

勿驚こんな不景氣の世に壹萬圓の金儲が副業として確實に出來る大考案が愈我本組合長の腦裏より發表されたり今日殆ど無資本の者が誰でも十數年又は二三年の後は必ず各人共壹萬圓の大金を安全に蓄積すべき方法組合長の獨特なる發明力によて考案されたり、詳細は我雜誌によりて發表さるべし此大々的有利堅實利殖の大方針は我組會員會員本誌讀者各位の手に確得さるゝ事となりたり、本考案は組合長が凡ての御得意の爲めに特に熟慮默考の上完成せられたる大考案にして各御得意たる者は女でも小供でも農家でも勤人でも商人でも何人にも必ず一定の年限中に一萬圓を蓄積し得べき確實安全方法也、其如何に奇々妙々にして而も的確なるかは詳細説明せし我雜誌を見られも此確實蓄積法は天下唯一我組合の即ち專賣的獨專事業也前代未聞にして本業を捨てず副業として猶但必ず成業し得べき獨特的蓄成團方法也御得意は何人も此蓄成團員たる得べし最新確實萬金蓄積法を各得意に報導する上に於て本蓄成團計畫の發表後如何に各御得意が大發展せらるゝかは實に豫想に難かりざる所也詳細は返信券封入にて照會次第詳細既明せし美麗雜誌一冊送本す

日本通商聯絡組合本部



# 「オックスフォード小冊子」中の時局經濟研究

堀江歸一

## 一

オックスフォード大學出版局は昨年歐洲戰亂勃發以來オックスフォード小冊子(Oxford Pamphets.)なる題名の下に、時局に關する幾多の小冊子を刊行し、其數既に四十冊の多きに及べり。其中に時局經濟に關するもの二種あり。一はダブリユー・シエー・アッシユレー氏の「戰爭と經濟的形勢」(W. J. Ashley-The War and its Economic Aspects.)にして他の一はアール・エッチ、リユー氏の「戰時に於ける食糧供給」(R. H. Rew-Food Supplies in War Time)是れなり。前者は二十一頁、後者は十九頁に過ぎざる小冊子にして、内容必ずしも豐富ならず、又孰れも時局進行中の執筆に係り、最後の論斷明快ならざるの嫌あれども、時局經濟の研究に資するもの少なからざるを以て、其要領を紹介す可し。

## 二

アッシユレー氏は曩に獨逸に學び、獨逸の國情に通じ、獨逸に同情を有し、英獨親交を理想とする學者なること、世人の熟知する所なり。然も氏が上記小冊子に於て、英獨の戰時經濟を比較論評するや、毫も是等の事情に煩はされず、飽くまでも公平無私の態度を持するの觀あり。即ち曰く

敵國と聯合諸國との海軍の勢力にして同等ならんか、獨逸は英國に比して、遙に安全なる地位に居るを得たるの道理なり。蓋し獨逸は英國に於けると同等の程度に於て、製造工業の

爲めに農業を犧牲に供せず、外國食糧の供給杜絶より生ずる危險に對して、堪ゆるの力を備ふればなり。然れども英國幷に聯合諸國が獨り海上の權勢を掌握せんか、英獨兩國の經濟的困難に根本的相違を生ずるを免かれず。英國の困難は主として複雜なる近代信用の機關國際間の支拂定期取引に基き、獨逸は英國と同等の程度に於て、是等特殊の困難を感せず現に支拂猶豫法の制定を必要とせざりしを誇るを得たりと雖も、斯る相違は畢竟倫敦が世界金融の中心點たり、外國爲替の微妙なる裝置の樞軸たるが故に生じたるものゝみ。而して斯る信用並に市場組織の一時的破壞は之を修理するを得べく、現に英國に於ては、政府銀行並に組織ある利害關係者の協力と手形仲買人、外國に勘定を開ける商人、定期取引に從事する者に與へられたる救助とに依て、巧に修理せられ、今や內外に於ける英國經濟的活動の根據たる生產能力は殆ど平時と異ならざる狀態に復するを得たり。蓋し英國產業の生產物中、其三分の二は普通內國に於て、消費せらるゝものなり。然らば戰時に於ても、之と同一の需要を充たすの必要あると共に、英國民が食料品原料品を外國より輸入する以上は、戰爭に伴う恐怖の一過したる今日に於ては、斯る消費の大部分が舊狀に復せざるの理由ある可からず。一方に英國の輸出貿易に就て考ふるに、獨逸墺地利又は白耳義土耳古との取引の中止に依て、英國輸出の減損したる高は全體の八分の一又は九分の一に過ぎざる一方に、獨逸の失ひたる英本國並に英殖民地に於ける販路は當然英國の工場に依て補はるゝを要し、又從來獨逸の占めたる他國市場に對しては、米國若くは日本企業の活動するものありとするも、尙ほ英國貿易を擴張するの場所たるを得べし。故に信用並に爲替に於ける困難の除却せられたる今日に於ては、英國が一度び喪失したる貿易を恢復して、寧ろ餘りあるを得るは當然にして、現に昨年七月に比較して、八月に於て三割七分の減損を生じたる貿易は九月に於て三割一分減と爲り、十月に於て二割一分減と爲り、七月と八月とを比較して、二分八厘より七分一厘に昇進したる職工組合の失業率も亦九月に於て五分九厘に、十月に於て四分四厘に減少したり。

英國政府が金融機關の復興に最善の努力を致し、復興せられたる金融機關を通じて、商業取引の恢復を謀りたるは、戰時經濟策の要訣として、最も注目を値する所なり。而して此方針能く其效果を呈し、戰時に於て早く戰爭の影響を脫するを得たるは、アッシュレー氏と共に、一般世人の承認するに躊躇せざる所なる可し。然らば、此點に於て獨逸は如何なる地位に立てりや。今囘の戰爭に於て、獨逸が戰時經濟上に容易ならざる打擊を蒙れる根本の原因は輸出工業國たる地位に進みながら、貿易を防護するに足る可き海軍力を備へずして、戰爭に干與したるの一事に外ならず。姑くアッシュレー氏の言に依て、獨逸が輸出工業國たるに至れる一般の狀況を說明す可し。

最近半世紀間に於て、獨逸は急速に工業化したり。千八百八十二年獨逸に於ける商工業從業者は人口全體の四割五分に過ぎざりしが千八百九十五年には五割と爲り、千九百七年には五割六分と爲れり。此間自然力石炭の發見等に依て、製造業が著大の進步を致したるの事實は之を爭ふ可からず。若しも面積廣濶にして、富源の豐饒なる國ならんか、自足狀態に居りて、尙ほ製造業の發達を期するを得べしと雖も、獨逸の國情を以てしては、外國の市場を開拓するに非ざれば、廣大なる工業の膨脹を求むる能はず。製造業は原料品の供給

を必要とし、而して外國人は自ら貨物を賣却せざれば、之を購入せざるを以て、大なる輸出は自ら大なる輸入を惹起したり。而して此間獨逸の輸出は製造品を主とし、其輸入は食料品並に原料品に重きを置くに至れり。獨逸は陸上に於て歐洲大陸諸國と聯絡を有すと雖も、斯る聯絡に依て、獨逸に供へらるゝ市場は比較的狹隘にして、現に千九百年獨逸貿易の七割は海上經由に依り、今日に於ては其割合の更に大なるを見る可し。故に獨逸にして海上權を左右する能はざれば、獨逸の商品は徒に敵國の捕獲に歸するに止まらんのみ。現に今回の戰爭に於ける獨逸の貿易狀態を見るに、其輸出の四割、其輸入の四割四分は獨逸が敵手としつゝある國と行はるゝものなり。獨逸は西部バルチック海に於ける貿易の外は自國の商船をして貿易に當らしむるを得ず、開戰後捕獲を免かれたる商船も空しく自國港内に碇繫せざるを得ざるの狀態に居れり。然らば中立國の船舶に依り、又中立國を經由して、貿易を行ふの望ありやと云ふに、此點にも亦種々の妨碍なきを得ず。第一獨逸の利用し得べき中立國の船舶には自ら限りあり。即ち中立諸國の船舶は世界商船全體の四分の一にして、此内の一部分が獨逸の利用する所と爲るのみ。第二獨逸が斯る方法に依て輸入し得る貨物の大部分は絶對禁制品か、然らずんば條件付禁制品なるを以て、中立國の船主は是等貨物の搭載を拒絶するに至る可く、第三聯合諸國は自國の主として供給する貨物の輸出を禁止し、又英國の如き獨逸の專ら供給する砂糖の輸入を禁止したり。第四聯合諸國と敵國とに於ける人民の中立國を經由する間接貿易も原産地證明と貨物仕向地申告とに依て制限せらる可く、第五丁抹並にスカンヂイナヴヰア諸國の如き獨逸の近隣に居る中立國も自國の食糧供給を豐富ならしむる爲め、又聯合諸國との紛議を避くる爲め、今や食料品並に戰爭の目的に供用せらるゝ幾多貨物の輸出に制限を加へ、第六北海を交戰區域とする布告並に獨逸自ら浮流水雷を埋設したる事實は北海を經由して、輸送せらるゝ貨物の運賃保險料を禁止的高率に至らしめたり。

斯の如くアッシュレー氏は獨逸戰時の海上交通を不可能とし、又獨逸を以て事實に於て封鎖せられたるものと認む。既に然る以上は、氏が獨逸戰時の食糧供給に就て、悲觀說を爲す亦異とするに足らず。而して其悲觀說たる、頗る系統的なるを覺ゆ。即ち曰く

食物に關しては、從來農業保護の計畫の行はれたるが爲めに、獨逸は英國が同一の場合に陷りたるよりも、良好なるが如し。國民が主たる食料として消費する穀物は今日尙ほ燕麥にして、全部の供給擧げて帝國内に産出せらる。然も近年小麥粉を以て製造せらるゝ麵麭は漸く一般の消費する所と爲り、所謂黑麵麭中にも小麥粉の混用せらるゝもの少なからざるを以て、小麥は國民の消費する麵麭の五分の二を占むるものと見る可し。而して此小麥の三分の一は外國殊に主として露國より輸入せらるゝものなるに於ては、他の源泉に依て斯る不足を補充するの困難なるは、之を想像するに苦しまず。代價が競爭に依て定めらるゝ場合に、供給不足の代價に及ぼす影響が不足額に對して、比例を逸するに至るは、經濟學上の原則として一般に承認せらるゝ所なり。英國が官憲自ら食料品の代價を決定するの計畫を行ふこと僅に數週に過ぎざりしに反し、獨逸が常に此計畫に依賴し、殊に穀價の公定に全力を傾注するの一事は兩國々情の相違を語るものと云ふ可く、殊に露西亞より家畜飼料たる大麥の輸入中止したる結果、獨逸

國內に產出せらるゝ大麥が著しく高價と爲り、大麥より廉價と爲れる燕麥が麵麭の原料たらずして、却て家畜の飼料たるの變態を生ずるに至れり。

戰爭の結末に就ては、アッシュレー氏は聯合諸國が勝利を得るものとし、此指定の下に於て、國際間殊に英國の立國上に及ぼす影響を論斷せんとしたり。而して此般の議論を爲すや、氏が往年故ジョセフ・チムバーレン氏と志を一にして、關稅改革論を鼓吹したる關係上、聊か其好む所に偏するの嫌あるを免かれず。即ち氏の議論を概括すれば、左の數項の外に出でず。

第一、英帝國の統一。

帝國統一に對する眞實の危險は姉妹民族間に於ける意識ある分離に非ずして、寧ろ地方的利害の强く、中心的勢力の弱きに基く無意識なる離反なり。然るに今回の戰爭に於て、自治殖民地が任意に帝國の爲めに協力したるは、即ち帝國統一の感情の鞏固なること示すものにして、各方面に於ける協同的戰鬪は相互の認識、理解、尊敬を重ね、共同的記憶の基本たるを得べく、單一なる帝國を創設するに必要なる聯合的組織の素地亦自ら發生するを得べし。

第二、英獨の殖民地。

白人の住民を缺き、全く伯林より支配せらるゝ獨逸殖民地と英帝國を組織する自治殖民地並に廣大なる屬領とを比較するの倫を失するは論を俟たず。獨逸人は今日まで新開地に於ける善良なる殖民人たる事實を立證するに至らず。獨逸は人口稠密にして、國內に多數の人民を容るゝの餘地なしとの信念は即ち從來殖民地の擴張に腐心するに至れる一原因と爲れるものなれども、事實に根據を置くものに非ず、唯獨逸は輸出品分配の中心點として、石炭貯藏無線電信聯結の必要より、殖民地を利用したるものゝみ。今や戰爭の結果、獨逸は殖民地の大半を喪失せざるを得ず。思ふに英國政府は此問題に對し、講和條件決定に臨んで、寬大なる態度を持せんとすると舊の如く爲る可しと雖も、英國以外の政府にして此點に發言するものなきを得ず。領有當時の事情より云はんか、獨逸と雖も、膠州灣の還付を待望する能はず。他の殖民地中、英國の領土を距ること遠く、又英國政府の支配に難きものに至つては、宜しく講和當時の談判に一任す可しと雖も、英國の殖民地が既に征服し又其殖民地の交通圈內に在る獨逸殖民地は當然新なる領有者の掌中に殘る可きものとす。是れ獨逸の自尊心並に權勢を傷くるものなる可しと雖も蓋し已むを得ざるの數なり。

第三、英國經濟政策の革新。

英國人に對して、更に直接の興味ある問題は今回の戰爭が內國經濟政策上に及ぼさんとしつゝある影響是れなり。蓋し政府は時局の必要に促されて、直に經濟上に於ける非干涉主義としたる傳習的政策を廢棄し國民亦之に贊成の意を表したり。今や政府の信用は商業の各方面に及び、貿易の或るものは輸出禁止令の下に居り、或る種の貨物は政府に依て購入せられ、廣大なる新製造業は政府に依て奬勵せられ、現に染料製造の如き、政府の補助金を支給せらるゝものあり。

## 三

「戰時に於ける食糧供給」と題する小冊子の著者リュー氏の如何なる經歷を有する人士なるや、余の寡聞なる氏が英國農務省書記官の一人として、現に同省に勤務しつゝある以外に之を審にする能はず、而して氏の冊子に於て公にしたる議論たる、頗る正確にして、嘆稱す可きものあり。

英國が今日外國より輸入する食料品の金額は

一年二億磅を下らず、之に茶、珈琲、コヽアの如き飲料物を加へんか、二億二千萬磅に達し、一人當り四磅十五志と爲る可し、而して食料品を英國に供給する諸外國を價格に依て列記すれば、合衆國、アルゼンチーン、丁抹、加奈陀、印度、濠洲、露西亞、和蘭、獨逸、ニユージーランド、墺地利匈牙利、佛蘭西。西班牙、錫蘭の順位と爲る可く。此内獨、墺兩國より供給を受くるは、主として砂糖にして、錫蘭より輸入するもの亦茶あるのみ。小麥は專ら合衆國、加奈陀、印度、アルゼンチーン、濠洲、露西亞の供給に係り、肉は濠洲、アルゼンチーン、ニユージーランド、ウルグエーより、豚肉燻製肉は合衆國、丁抹、和蘭、加奈陀より、米は印度より、砂糖は獨逸、墺地利、玖瑪、和蘭、白耳義より、牛酪は丁抹、露西亞、和蘭、濠洲、瑞典佛蘭西、ニユージーランドより、乾酪は加奈陀ニユージーランド、和蘭より、果實は西班牙、合衆國、佛蘭西、加奈陀、カナリー島、コスタリカ、コロンビヤより、茶は印度、錫蘭、ジヤヴア、支那より、コヽアは英領西阿非利加、同西印度、和蘭、伯剌爾、瑞西より、珈琲は伯剌爾、コスタリカ、コロンビヤ、グアテマラ、印度、墨西哥より供給せらるゝを常とす。

上記食料品の品目並に供給國別を通覽して、吾人の第一に感ずるは、今日英國の敵手とする獨、墺兩國より、英國の輸入する重要食料品は一の砂糖あるのみ、他に何ものを存せざる一事なり。固より砂糖以外に、英國は千九百十三年中獨逸より四十二萬二千磅の馬鈴薯、二十四萬六千磅のコヽア、二十一萬六千磅の鷄卵を、墺地利より三十七萬六千磅の鷄卵を輸入したりと雖も、全體の供給より見れば、九牛の一毛に過ぎざるのみ。故に今日敵國と通商上の關係斷絶するも、英國は砂糖以外に、食料品の正常なる供給を缺ぐるに大なる苦痛を感ずるものに非ざるなり。然も從來此點に於て、種々の杞憂の生じたるは何故なるか。其理由は戰時に於て食料品の代價に恐慌的騰貴を惹起すの一事に外ならざるが如く、現に往年組織せられたる戰時食料品供給問題委員會も亦調査の結果を概括して、左の報告を爲したり。

吾人は英國人をして實際の飢餓に陷らしむるの狀態の現出するに至るを憂ひずと雖も、然も戰爭が物價に及ぼし、又貧民社會に及ぼす影響に就て、大なる疑懼の念なき能はず、固より物價に生ずる經濟的騰貴即ち戰時に於ける運賃保險料の昂進より生ずるものに就ては深く驚くを要せずと雖も、此以外に大海戰の破裂に依て生ずる興奮の爲めに、重要貨物の代價に起る恐慌的騰貴に對しては、之を閑却する能はず。正確なる報道の普及は恐慌に基く騰貴の繼續を抑制す可く、又其騰貴の甚だしきと共に一方に、供給を增進するの努力亦行はる可しと雖も、物價の騰貴が其始に於て急劇にして、又或る時期の間繼續するときは、大なる危險を生ずるは勿論にして、吾人は到底斯る危險に對して、冷靜なる能はず。

然らば昨年八月開戰以來十月に至る三箇月間英國は食料品の供給並に其代價の騰貴に就て委員會の報告したるが如き危險を感じたるや否や。先づ各種食料品の上記三箇月間に於ける輸入高を前年の同時期と比較するに左の如し。

（單位は一千ハンドレッドウエートなり）

| | 一九一四年八月—一〇月 | 一九一三年八月—一〇月 | 增 | 減 |
|---|---|---|---|---|
| 小麥、小麥粉 | 三四、六六五 | 三一、四五四 | 三、二〇九 | — |
| 米 | 一、二二三 | 二、六二六 | 八八二 | — |
| 牛肉 | 一、九〇三 | 一、一一五 | 七八四 | — |
| 羊肉 | 七八四 | 三三一 | 四五三 | — |
| 豚肉 | 一、五二七 | 一、六三〇 | 一〇三 | — |
| 牛酪 | 一、〇一七 | 一、一九七 | 一八〇 | — |
| 乾酪 | 七八三 | 七三四 | 四九 | — |
| 果實 | 三、七三八 | 四、二二一 | 四八三 | — |
| 茶 | 八六四 | 一、二〇六 | 二四二 | — |
| 珈琲 | 一一三 | 一一四 | 一 | — |

然らば此間是等貨物の代價は如何に變動したるか。今七月の物價指數を百とし、爾後の變動を示せば左の如し。

| | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 |
|---|---|---|---|---|
| 內國產牛肉 | 一〇〇 | 一〇六 | 一〇四 | 九九 |
| アルゼンチン冷藏牛肉 | 一〇〇 | 一四二 | 一四七 | 一四四 |
| 內國產羊肉 | 一〇〇 | 一〇五 | 一〇一 | 九九 |
| 濠洲產羊肉 | 一〇〇 | 一二二 | 一三三 | 一三四 |
| 內國產小麥 | 一〇〇 | 一〇九 | 一一一 | 一〇九 |
| 米國小麥 | 一〇〇 | 一一三 | 一二一 | 一一六 |
| 麥粉 | 一〇〇 | 一二三 | 一三一 | 一二六 |
| 米 | 一〇〇 | 一一五 | 一二〇 | 一一九 |
| 丁抹牛酪 | 一〇〇 | 一一〇 | 一〇二 | 一一四 |
| 乾酪 | 一〇〇 | 一一二 | 一一一 | 一一二 |

之を全體より見るに、食料品代價の騰貴は世人の豫想したる所よりも、小なりしを認む可く斯の如きは英國の艦隊が海上權を掌握して食料品の供給を維持し、且つ代價の騰貴が實際に於ける供給不足以外の原因に基けるものとせざる可からず。英國の嶋嶼が盡く敵國海軍に依て包圍せられ、封鎖を破りて、何等食料品の供給を得る能はざるに至るが如きは、之を想像する能はず。之を海戰の記錄に徵するも、或る港灣が絶對に封鎖せられ、一の船舶すら通過せざるに至れるの事實は未だ世人の聞知せざる所にして、英國の如き無數の港灣曲浦を有する沿岸線を封鎖するも、巨利を得る爲めに、冒險の精神に富める船舶の所有者が封鎖を突破して、食料品の輸送を企つ可きは論を俟たず。

以下リユー氏は進んで英國に對する封鎖の完全に行はれたる場合に、英國が內地に於ける食料品を利用して、如何に鎖國の狀態に堪へ得るやの問題を研究したれども、此種の議論は今回の戰爭に於て、殆んど其無用なること立論せられたるを以て、之を紹介せず。

# 『經濟政策』の意義に就きて松崎壽氏に答ふ

山本美越乃

曩に予が京都法學會雜誌第九卷第十一號に『經濟政策に對する私見』を披瀝して、斯學の性質に關する從來の說明に滿足すること能はざる所以を述べしに、松崎壽氏は三田學會雜誌第九卷第三號に於て、卑見に對する批評を加へられたる事は予の深謝に堪ゑざる所なり。予今南洋新占領地に於ける經濟事情調査の爲め同地方に出張の命を受け、其準備に忙殺せられつゝあるも、寸暇を偸みて更に卑見の存する所を要言し以て氏の厚意に酬ゆることゝなせり。

先づ事の簡明を貴むの主旨より、同氏の評說の順序に從ひ、列擧的に卑見の要點を左に答へんと欲す。

（一）　予が經濟政策を以て、國民の經濟的生活を完全に發達せしめんがために、國家又は公私の團體の行ふ所の方策なりと云へるに對し、氏は國民の經濟的生活と云ふが如き、不透明なる文字を用ゆるよりは、寧ろ國民經濟の健全なる發達と稱する方、直截明快なりと論ずるも、吾人は何が故に經濟的生活（エコノミックライフ）なる語が、氏の言の如くに不透明にして、國民經濟なる語が直截明快なりや、全然其意を解すること能はず。卑見に從へば國民經濟の健全なる發達と云ふが如き說明こそ、寧ろ茫漠として望洋の感なき能はずと考ふ。然れ共こは畢竟用語の末節に拘泥せる議論に過ぎざるを以て、更に多くを辯ずるの要なしと信ず。

（二）　予が經濟政策と社會政策との間に、無用の限界を設けたりとの氏の批評に對しては、是等の兩政策を往々混同せんとする、從來の普通の論者の立點よりせば、夫れ或は然らん。然れ